⑦　ナトリウム　⑥で得た試料溶液につき、原子吸光光度法（フレーム方式）により試験を行う。⑥と同様に空試験を行い補正する。別に、ナトリウム標準液１mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加え、標準液とする。試料溶液及び標準液につき、光源としてナトリウム測定用中空陰極ランプを、可燃性ガスとしてアセチレンを、支燃性ガスとして空気をそれぞれ用い、波長589.0nmで吸光度を測定するとき、試料溶液の吸光度は、標準液の吸光度以下でなければならない（0.1％以下）。

（略）

⑴　保存の方法の基準　（略）

イ　製剤　（略）

⑶⑻～⑸⑹　（略）

⑸⑺　２－デアミノ－２－ヒドロキシメチオニン亜鉛

ア　製造用原体

⑴　成分規格

含量　本品は、定量するとき、２－デアミノ－２－ヒドロキシメチオニン（２－ヒドロキシ－４－メチルチオ酪酸、$C_5H_{10}O_3S$）として80.0～84.0％及び亜鉛として16.0～20.0％を含む。

物理的・化学的性質　本品は、灰色の粉末であり、特異な臭いを有する。

確認試験

①　本品５mg（4.5～5.4mg）に水５mLを加えて溶かし、１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液２mLを加え、よく振り混ぜ、ニトロプルシドナトリウム試液0.3mLを加え、再びよく振り混ぜ、35～40℃で10分間放置した後、２分間氷冷し、希塩酸２mLを加え、混ぜるとき、その溶液は、赤色を呈する。

②　本品0.5ｇ（0.45～0.54ｇ）を量り、0.5mol／Ｌ塩酸試液25mLを加え、60℃の水浴中で軽く振り混ぜながら３分間加温する。放冷した後、更に0.5mol／Ｌ塩酸試液25mLを加え、振り混ぜる。この溶液10mLを量り、トリクロル酢酸溶液（１→10）10mLを加え、振り混ぜた後、10分間放置する。この溶液をろ紙でろ過し、ろ液を試料溶液とする。試料溶液１mLを量り、ピリジン１～２滴及びチオシアン酸カリウム試液１mLを加えるとき、溶液は、白色の沈殿を生じる。

③　本品につき、赤外吸収スペクトル測定法のＡＴＲ法により測定するとき、波数1,625cm^{-1}、1,577cm^{-1}及び1,370cm^{-1}付近に吸収を認める。

純度試験

①　鉛　本品0.67ｇ（0.665～0.674ｇ）を量り、硝酸３mL及び過塩素酸５mLを加え、蒸発乾固し、放冷した後、希塩酸５mLを加え、水浴上で加温して溶解する。放冷した後、水５mLを加え、混合し、ろ紙でろ過する。残留物を水５mLで洗い、洗液を先のろ液に合わせ、25mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて25mLとし、試料溶液とする。別に、原子吸光光度用鉛標準液４mLを全量ピペットを用いて量り、50mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて50mLとする。この溶液10mLを全量ピペットを用いて量り、25mLの全量フラスコに入れ、希塩酸５mL及び水を標線まで加えて25mLとし、標準液とする。試料溶

⑦　ナトリウム　⑤で得た試料溶液につき、原子吸光光度法（フレーム方式）により試験を行う。⑤と同様に空試験を行い補正する。別に、ナトリウム標準液１mLを全量ピペットを用いて量り、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加え、標準液とする。試料溶液及び標準液につき、光源としてナトリウム測定用中空陰極ランプを、可燃性ガスとしてアセチレンを、支燃性ガスとして空気をそれぞれ用い、波長589.0nmで吸光度を測定するとき、試料溶液の吸光度は、標準液の吸光度以下でなければならない（0.1％以下）。

（略）

⑴　保存の方法の基準　（略）

イ　製剤　（略）

⑶⑻～⑸⑹　（略）

（新設）